

## 〔カンショ〕

### 1. 作付の概況

2007年度の全国の作付面積は前年産並みの40,700haで、九州は19,400ha（前年対比2%増）であった。これは、全国的に農家の高齢化による労働力不足等により作付けが減少したものの、宮崎県、鹿児島県で前年に続き焼酎用の需要が増加したためである。10a当たり収量は2,380kgで、前年産を40kg（同2%）下回ったため、収穫量は96万8,400tとなり前年産に比べて2万500t（同2%）減少した。10a当たり収量が前年を下回った理由は、茨城県等で着いも数の増加により前年産を上回ったが、鹿児島県では9月以降の高温・少雨の影響でいもの肥大がかなり抑制されたためである。

### 2. 作柄の概況

九州4県の10a当たり収量は2,233kgで、前年を3%下回った。また、九州全体の収穫量は479,640 tであった。

鹿児島県では、植付始めの4月は平均気温が全般的に低く推移し、平年に比べて降水量はやや少なかったが、適度な降雨があり、活着は比較的順調であった。5月から6月にかけては晴天が続き、平均気温は平年並みであったが、降水量が少なかったことから、地上部の生育はやや抑制された。また、6月下旬から7月中下旬まで降雨が多く、無マルチ栽培では畦が崩壊し培土ができない圃場が見られ、その後台風の影響もあったため、地上部の生育は緩慢であった。このためマルチ早掘栽培では、着いも数は少なくなり、収量は平年並みかやや劣った。8月は天候も安定し、地上部の生育は回復したが、9月以降の高温・少雨の影響でいもの肥大が抑制された。10a当たり収量は2,640kgで、前年産を260kg（10%）下回った。また、収穫量は36万9,600tで、前年に比べて3万1,800t（8%）減少した。

宮崎県では5月から6月上旬の植付期にかけて天候に恵まれ、苗の活着は比較的良好であった。生育初期には平年に比べて降水量が少なく、また6月下旬から7月中旬にかけて長雨で日照不足となったため、8月収穫の早掘栽培では着いも数が少なく、収量は平年に比べて低かった。8月以降の平均気温は高めで、日照時間は多かったものの、降水量は平年に比べて少なかった。8月から9月にかけてナカジロシタバの害が多かった。10月以降収穫の標準栽培については、いもの肥大は平年並みとなり、10a当たり収量は2,440kg（前年並）となった。収穫量は作付面積の増加により、前年産に比べて2,900 t（4%）増え、7万3,200 tとなった。

（九州沖縄農業研究センターサツマイモ育種研究チーム 吉永 優）

2007年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較				
				作付面積		10a当たり 収量	収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)	
全国	40,700	2,380	968,400	△ 100	100	98	△ 20,500	98
九州	19,400	2,233	479,640	400	102	97		
福岡	190			△ 4	98			
佐賀	116			△ 2	98			
長崎	551	1,550	8,540	△ 5	99	90	△ 1,020	89
熊本	1,230	2,300	28,300	△ 20	98	106	1,200	104
大分	312			5	102			
宮崎	3,000	2,440	73,200	130	105	100	2,900	104
鹿児島	14,000	2,640	369,600	300	102	90	△ 31,800	92
沖縄	251			△ 31	89			

注)平成19年産かんしょの収穫量(農林水産省統計部 平成20年2月8日公表)に基づいて作成  
九州の10a当たり収量、収穫量は福岡、佐賀、大分を除くデータ